

ロシア

経済成長が加速か？

ロシアの第1四半期の経済成長率は対前年同期比で4.1%となり、2010年からの水準を維持している。引き続き輸出が好調であるほか、国内消費も堅調に推移している。

第1四半期の輸出は1,441億ドル（経常収支ベース）に達したが、これは2008年第3四半期に記録した1,368億ドルを超え、過去最大である。背景には、資源価格の高騰などがある。ロシア産原油価格の指標銘柄である「ウラル」の価格は1バレルあたり107ドル（1-5月平均）と、前年同期を約4割上回る水準となった。さらに、これはロシア政府の2011年経済見通しの前提となっている価格（81ドル）よりも3割以上高い。

小売売上高は、第1四半期が対前年同期比5.0%増、その後4月、5月にそれぞれ同5.6%増、同5.5%増となり、増加傾向にある。他方、実質可処分所得は低い伸びから減少へと転じている。経済発展省の分析によれば¹、小売売上高の上昇は、貯蓄性向の低下（消費性向の上昇）と消費者金融の拡大によってもたらされている。このことは、消費構造にも反映されていて、食料品売上高は1～5月において1.0%しか増加（対前年同期比）しなかったのに、非食料品は9.5%（同）も増加している。

原油などの輸出の増加は国家財政を潤す。2011年の連邦予算は赤字を見込んでいたが、1～5月の実績は3,562億ルーブルの黒字を計上した²。さらにロシア連邦政府は、国内の石油製品の供給不足や価格高騰への対応として、5月1日から原油及び石油製品の輸出関税を引き上げた。6月1日に成立した補正予算では、年間歳入が当初予算の8.8兆ルーブルから10.3兆ルーブルに引き上げられ、財政赤字は1.8兆ルーブルから0.7兆ルーブルへと大幅に圧縮されることとなった。

今後、年末の下院選挙、来春の大統領選挙に向けて、歳出圧力が高まる時期に入る。実際の歳出拡大は限定的でも、潤沢な財政資金への期待だけで投資・消費が刺激され、

2011年の経済成長率が政府見通しの4.2%を上回る可能性は高いと考える。その場合には、副作用としてインフレ率が2年ぶりに二桁に戻る恐れがある。

日本の自動車メーカーの動き

最近相次いでいる自動車メーカーの極東進出に関する話題について、各種報道等を整理しておきたい。

まず先陣を切ったのはトヨタである。3月1日付プレスリリースで、三井物産及びロシア自動車メーカーの「ソルレス」社との協力により、ウラジオストクでランドクルーザープラドを組み立てる計画を発表した。2012年春から、当面月産1,000台のペースで生産する。

それ以外の各社のケースは、正式発表ではなく、報道が先行している。その中でも比較的、内容が明確なのが、いすゞのプロジェクトである。同社は既にタタルスタン共和国のエラブガ市において、「ソルレス」社との合弁でトラック生産を行っているが、これをウラジオストクの同社工場に移管する計画である³。

また、ロシア連邦経済発展省は、「6月21日にマツダとの間で沿海地方での自動車生産に関する合意書に調印した」と発表した⁴。生産台数は年間25～5万台とされている。他方、同社では、単独進出か合弁かについてはまだ決めていない⁵としており、計画はあまり具体化していない模様だ。

このほかに以前から取りざたされているのが日産車の生産である。日産・ルノー連合は、ロシア最大の自動車メーカー「アフトバズ」社を買収する方向で調整しており、買収後は極東での生産も検討するとされる⁶。ただし、ルノー関係者は、極東での生産プロジェクトの優先順位は必ずしも高くなく、具体化する時期は不明だとしている⁷。

さて、トヨタは2005年に日本の自動車メーカーとして初めてロシア進出を決めた。その時は、自動車メーカーに限らず多くの日本企業がロシアに向かう大きな契機となった。今回もトヨタの動きが極東への流れを作るのだろうか。注目していきたい。

（ERINA調査研究部主任研究員 新井洋史）

（対前年同期比）

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2010（四半期）				2011	2011（月次）				
							1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	1月	2月	3月	4月	5月
実質GDP	6.4	7.7	8.1	5.6	▲7.9	4.0	3.5	5.0	3.1	4.5	4.1	—	—	—	—	—
固定資本投資	10.9	16.7	21.1	9.8	▲16.2	6.0	▲4.8	5.6	5.3	11.1	▲0.8	▲2.1	▲0.4	▲0.3	2.2	7.4
鉱工業生産高	5.1	6.3	6.3	2.1	▲10.8	8.2	9.5	10.9	6.4	6.5	5.9	6.7	5.8	5.3	4.5	4.1
小売売上高	12.8	14.1	16.1	13.5	▲4.9	6.3	2.2	6.9	8.4	7.4	5.0	3.9	6.0	5.1	5.6	5.5
実質可処分所得	12.4	13.5	12.1	1.9	2.3	4.2	7.3	3.7	4.5	2.1	0.2	2.7	0.3	▲1.8	▲2.0	▲5.0
消費者物価*	10.9	9.0	11.9	13.3	8.8	8.8	3.2	4.4	6.2	8.8	3.8	2.4	3.2	3.8	4.3	4.8
工業生産者物価*	13.4	10.4	25.1	▲7.0	13.9	16.7	2.7	5.5	8.2	16.7	7.0	2.2	5.6	7.0	9.1	10.4
輸出額（十億ドル）	243.8	303.6	354.4	471.6	303.4	400.1	92.2	97.4	97.6	112.9	144.1	30.9	39.0	44.1	46.1	—
輸入額（十億ドル）	125.4	164.3	223.5	291.9	191.8	248.7	45.7	58.2	68.4	76.5	64.5	16.0	21.6	26.8	26.8	—

*前年12月比。

**斜体は暫定（推計）値

出所：『ロシアの社会経済情勢（5月号）』ほか、ロシア連邦国家統計庁発行統計資料

¹ ロシア連邦経済発展省『ロシア連邦経済現状モニタリング2011年1-5月』2011年6月22日。

² 暫定値。経済エキスパートグループ『経済指標概観』、2011年6月10日。

³ 2011年6月22日付、日本経済新聞電子版。

⁴ 2011年6月23日付、RIA “Novost”

⁵ 2011年6月30日付、日本経済新聞電子版。

⁶ 2011年6月16日付、日本経済新聞電子版。

⁷ 2011年6月1日付、RIA “Novost” のルノー社ロシア総支配人ブルーノ・アンセレン氏へのインタビュー記事。